
雪にまつわるふたつのはなし

かせいち

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雪にまつわるふたつのはなし

【Nコード】

N9542F

【作者名】

かせいち

【あらすじ】

雪の降る深夜。どこかにミトンを落とした。冬の帰り道。不意にかなしくなる。

ミトン

手袋をなくした。

ちっ、と小さく舌打ちをして、私は元来た道を引き返した。

おそらくコートポケットから煙草を取り出したときに落としたのだろう。

今日も雪が降っている。

降り積もって踏み固められた真っ白な雪道を見渡しながら歩く。風が吹くと顔が凍りつくようにつんと冷たい。

どの辺に落としたんだろう、私のミトン。

柔らかなクリーム色の、ふわふわのミトン。

あの人が私に似合う色だと買ってくれたミトン。

穏やかで優しく、ほんわかして、女の子らしい私にぴったりの色だと言っていた。

笑わせる。

そんな女の子がどうして煙草なんか吸うか。どうして午前2時半の誰も居ない雪道をひとり歩いたりするか。

ポケットから手を出して、灰を落とすために煙草をつかんだ。

一瞬にして手が冷え切る。

くそ、寒い。

なんで今年の冬はこんなにも寒いんだ。

雪だって、なんで懲りもせずこんなに降り続けてんだ。

私のイライラなんか知る由もない無知な雪は、つらつらと私めがけて降りてくる。

(雪、きれいだなあ)

どこからか声が聞こえてきた。

(俺、冬って好きだよ。寒いけど)

ああ、嫌だ、

(寒いけど、その分、手つないだときにさ、あたたかさがよくわかるから)

やめて、思い出したくない、

私は冷え切った手をポケットに戻すのも忘れて、立ち尽くした。

私の手を包み込んでくれるもの、全部、なくなってしまったんだ。

私はいつだって冷たい手をして待っていた。

誰かが包み込んでくれるのを。

あたたかさをずっと待ってたんだ。

でも今私を取り囲んでるのは、優しいけど冷たい、雪だ。

私は再び歩き出した。

ミトン、私のミトン、一体どこに行っちゃったんだろう。

真夜中の雪道で、私はちっばけなあたたかい手袋を探してどこまでもざくざく歩いて行った。

ゆきみち

もつどのくらいの間、もの食べてないんだろつ。

いや、食べてはいるけど、一日に1、2回くらい思い出したように冷蔵庫を開けて、2日前に炊いた米だとか、果物だとか、中にあったものを適当にそのまま食べているだけだった。

なんだかものを食べることにすら面倒臭い。

それよりも眠たい。

今この道端にうずくまって眠ってしまいそうなくらい。

この寒さなら確実に死ぬる。

ふうつと息をつく和白いもやが現れる。

顔を上げて、もうもつと真っ黒な夜空へ向かっては溶けていくそれを眺めながら歩く。

わたしは冬の白い息が好きだった。

とても美しい、と思っていた。

ただとても悲しいとも思っていた。

吐いた息は消えてなくなってしまうんじゃない。

ただ、目に見えなくなるだけなのに。

だから、いつもそこに居るのに、誰にも気付かれない。

それはものすごく悲しいことだと思う。

例えば、わたしが、

雪でスリップした車に吹っ飛ばされて電柱かガードレールかどっかに頭ぶっつけて死んだとしても、

ひとり暮らしの女性を狙った卑劣な犯罪に巻き込まれたとしても、空腹と貧血で道端で倒れてそのまま朝まで発見されずに凍死したとしても、

わたしは悲しくなんかない。

悲しくなんかないよ。

こうして冬の息みたいに生きてる方がよっぽど悲しいもん。

冬の家路はいつも悲しくなる。

うちに着いたらまた冷蔵庫を開けるだろう。

まだ何か残っていたらわたしはまた生き永らえるだろう。

こんなに悲しいのに、生きてしまう。

だから余計に悲しいんだ。

例えば冬の息の美しさに気付く人がわたしの前に現れたなら、

この悲しみもあと少しだけ和らぐような気がしてるんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9542f/>

雪にまつわるふたつのはなし

2010年10月31日01時51分発行